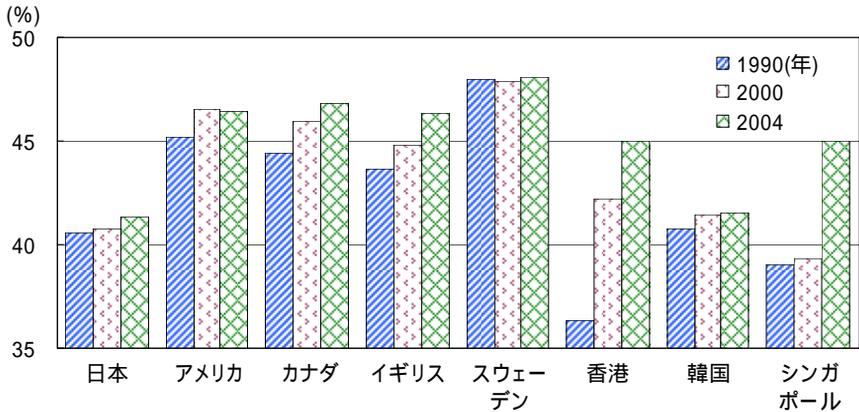


3 就業構造

3-2 就業者に占める女性の割合



▶ グラフの具体的な数値および資料出所については、「第3-4表 性・職業別就業者数」(p.97)を参照。
(注) イギリスの1990年は1991年の値。

比較可能な各国において就業者における男女の比率をみると、女性の割合は1990年から2004年にかけて上昇している。ただし、スウェーデン、韓国では、ほぼ横這いである。

日本は主な先進国の中で女性の割合が最も低いのがわかる。グラフ「2-5 女性年齢階級別労働力率 (p57)」のように、日本においては、出産・育児等のために特定の階層で女性の労働力率が低下するというM字カーブが現在でもみられることが、ひとつの要因としてあげられる。